新板毛吹草

へ利5
1846
4

1846
4

毛詩草木疏目錄

春部

元日　若菜
子日　初寅
元義長　初午
梅　鶯
霞　殘雪
雲冰　雪消
木目　柳
春草　菫
去年　蕨
雲月　椿
桃花　杏子

花
小米色
沈丁花
藤
蝶
蛙
雑々
鶯
櫻類 付櫻貝 櫻貝
雲霞
曲水宴
雑春
橘
海棠
躑躅
款冬
菜の花
歸雁
雲雀
春部之
若鮎
永日
三月盡

春　元日

今日候八世のかあ年まて祝ふ　春可
雪や積よとの人ひらいてさむの雲　昌意
四りく竹の孫のくくとれい　一正
打そもり碁の一目やとる日乃雲　德元

四年二の月くとりなれい
ちり落へとしーいやうーナ二神　玄扎
雪ふるさ高ふ高ふ白閑神の雲　元有
立返りてやー歳ひ立ふ雲　正利
雲の年ぬ雲ーり古くか古雲　仙老

四年の年に到りく
四年ふりもどりふせをし乃雲　月
年もたちてふり初ざうとり雲　正直

[illegible]　秀重
[illegible]　永治
[illegible]　重頼
[illegible]　弘永
[illegible]　貞盛
[illegible]　宗治
[illegible]　重方
[illegible]　正章
[illegible]　道二
[illegible]　政公
[illegible]　意教
[illegible]　重供
[illegible]　宣重
[illegible]　重貞
[illegible]　丹波守
[illegible]　利忠

[illegible]　望一
[illegible]　成春
[illegible]　貞継
[illegible]　由延
[illegible]　正甫
[illegible]　正之
[illegible]　休音
[illegible]　宗享
[illegible]　寸赤
[illegible]　道宅
[illegible]　勉秀
[illegible]　宗朋
[illegible]　之時
[illegible]　正依
[illegible]　背眠
[illegible]　勝盛

平産ていとひてもむるやせ世ぜ　吉林
書初はまを清とるゑ形ゑ　勝俊
祝酒の門口やまとふかさう縄　貞義
年酒の祝赤や芝門乃まち　安利

実のとしふ

冬ぜ始のこそこちてゐるやゐ蛍　信安
長寿さや角ぶりも世めも世乃を　祖義
立まゐやらんいうかへり秋澤國　正平
ゆゝしぜ実のとさしゐ乃はやゐ蛍　長重
音にあふや鏡の鮮ふかちん栗　信忠
四ひと永ぜ地書やゐふ乃まを　政之
松ぜやしゐやゐ酒の祝ゐ多祝　重久
ちぐの栗と撥ゐりちゐ祝鏡　宗房

午の年立まを年ひまを　作之嘉
ちやひまぜ乃に服付まを　同
口酒もてひまぜ乃ゐ一番一郎　同

世の年丑い元日ゐりゐれい
ゐもひもゐいちゐ乃ゐ一の嘉小　同
わゐゐの祝家とへう世ちゐ祝　同
ひすちゐ角まて立やゐ方蛍　同
あ小とゐあ新まを乃ゐ乃ゐ久　同
あ小のたゐごくゐりゐ小ゐ男　同
ゐ酒やゐゐゐ酒のゐてゐみこ　同
午ぜゐてつまていちゐ祝蘭　同

世の酒を祝ゐ日ゐりゐ六
年ハゐし日ハ角ゐ一の祝乃郎　昌嘉
雪ぜ吾ゐりまゐやたちぜてこ　同
祝ゐゐぜ夫の祝やゐ久ゐゐ蛍　光嘉
ゐふ立や蛍もひすこ祝間の乃　同
ゐ酒ゐ筆や立ゐ栗ふのゐつぎ　義可
山ゐゐこいいねぜてゐや酒嘉　義友
立ゐゐちゐもてやしまゐりゐ蛍　ちと一

元日の夕ぐれ
雲はふきくる嵐やあらしこそ　一雪
のどけさは年ぞ波やすす風袋　同
□はたらく杖やさきますすの花の　弘永

ゆく年に立まさるとからまい
ふる年は三春くるふの雲　同
東くる雪の日の杖ぶり　雪也
年ぞ矣も初めとそふぬ杖　同

如の年か
ちやく翁ゆうきの立ち波　秀重
雪のあしうり

水ぬるく年は井つく井の水　同
四方の立元方しかしゆ数のふりくれ
四方めぐ小ふ雪ぬ立く年男　仙雪
九雪の嵐や九こうんきふの雲　同
わ□ぬいぬ元ぬとまくへそゆう　雪也

常やの屋の杖れけるうぬ　同
年屋の門社ぬすぬ常もす　重供
□雪や□万年ぶぐすしぬくう　同
雪姫の年雪ぬ立ぬ雪雪　雪也
ゆく年の雪ぬ立ぬ花の雪　同

雪云旧年ゆくゆく年ぬ
雪の角ぬ新ゆくゆ雪ぬ　東吉
年ぬ□雪ぬ雪ぬ□ぬ　雪依
常氏楽ゆくやまゆくふの雪　市軒
雪ぬ雪てことやゆくむの光　也延
年屋の祝ぬぬ雪ぬ　雪之
ゆくぬやゆくりぬ屋雪　貞雄
ゆくぬ年ぬ雪ぬ年玉心玉　雪居
ゆくぬ年ぬ行ぬ年雪　同
ゆくぬ年ぬ行ぬ年雪　雪之
ゆくぬ年ぬ行ぬ年雪　同
ゆくぬ年ぬ行ぬ年雪　雪之

[illegible]　　一品
大宮院御歌　　家隆
[illegible]　　定家
[illegible]　　俊成
[illegible]　　永治
[illegible]　　西行
[illegible]　　寂蓮
[illegible]　　重定
[illegible]　　重氏
[illegible]　　光重
[illegible]　　通教

若菜

長月の末の歌とて　　川嶽　　俊恵
[illegible]　　月
[illegible]　　月
[illegible]　　月

東寺に行幸ありしとき
[illegible]　　月

七野の社にて
摘菜さへ野もせ[illegible]　　重頼
[illegible]　　宗房
[illegible]　　利実
七種は[illegible]　　俊恵
[illegible]　　徳元
春日野の[illegible]　　静安
[illegible]　　弘永

せきぞろやむさくさたくくめ哉　素友
念仏消て後ハや御堂の庭　言流
初寄れ嵩や踊躍念仏の庭　西章
坊主のよ声ぶりよからう読経哉　一正
喜夜八野なしたくさん也　西甫
響ゆハすてくさらや金鉢　光之
氏む人の鉦やるを念仏の庭　四之
嵩ぬ下にハせくきやせつき　季雅
引て又川さハも鉦翫行事　光之
平やけく絡とまづさく初始　同
化しひ徳色々かへせり閉所　一正
手をて出る寄けにけるつるも亦　同
漱ぎてもかぢりやさまの水烟　紫雲
鹿もや汲の淡の外に行　同
つまねもらりちや淘むあ寄せ寐字庵
持む若はさしてへつむなる下　国之

七種ごえ声もぬ六の花嫁作之　嘉教
嵩てよ寄に声もぬう飯ぞ　重貞

子日

若の根をかつて子日ず姫松　良之
先よさく縁にまつむかし小松引　季良
子日とく一わしいろ小松かな　道二
霞さへ雲川まりつ子日の姫　四发
虹染まてひつぐやれ小雲かな　光之

初寅

詣る人満やきよそら毘門　西季

左義長

爆竹にてしかも年風の虎尾哉　昌玄

初午

初午や嵩手にある花社杯　紫雲

梅

難波女色見ふハとく京成　素友

紅梅と名にはうつるやむかし男　徳元
鶯と同じ行まで梅花の香は　月
色もよし何も香もよし梅の花　自歴
にざ梅こそいさゝか何の花の兄　永治
梅が香で鼻息わきき白衣は　正利
郡俄づいと梅の香すゞし風は　鈴木
常に行て酒もつくる一梅　宗房
香盤の時さたく人ぬ梅乃花　盛政
綾衣香や梅のむかしはささぞかし　元教
古墨やつて此さゝ此梅と梅　道二
ほく花や見えかみ梅にはさらに　重方
咲梅はまさかてとりの卵　正玉
人の母は返しあり
はな向ふや満をまちの香もむかし　秋峯
徒梅の香ともなきさる風は　一正
梅が香の銀盤あまりや老の暦　自一
そのうつり香やはこ木の梅の花　正重
梅の香とは遠く風や文使　悦喜
詞作てみるや戸々やゝの花　月
咲香の人のよはつきも匂は　音政
だにてきくに匂ひは梅のつぼみかな　吉森
ねざめく女くる夜匂のぬ梅も　幸森
嗅風は梅を香とせよ梅の花　孝晴
匂ひぐくぐく池や色紙香　如心
花の兄元服香てや初名草　正幸
縁香の窓には梅のむかし枝　好勝
梅一本みくさにまさり白香かな　永沢
さく梅はなべてころの煙香は　正則
嗅風は梅やさんて唇香　宗春
紅梅は学び秘の下葉の卵　緑音
徒梅の人くむかえぞや法合　酒元
香やほまれ梅にていくつ梅梅　利清

名ゆあてく風もとそれ紅梅　家時
梅は天満神の御詠ふ　自義
花のあのうやみのうの梅ぶ　正雅
園の梅と白ひや梅の色ぶ　愛
咲梅の白ひだぶこそちぶ　光貞
梅り枝は落さぬ雪ふ　重信
梅の色さき梅色は梅の焼ぶ　利邑
ゆみてを梅の雪は木ぶ　昌元
光やくにそなりの梅ぶ　重方
先ひくく梅や書の迎原ぶ　盛元
咲梅の雪流ぶ　弘永
ひの見梅ぶ　利貞
一位ひひもるし編笠梅　寸糸
梅は太刀河ぶ　昌元
梅とてしらめや梅ぶ　康日
咲梅の雪の梅ぶ　重教

弱く八新宿の梅と　日
雪の数のやう白の梅　高房
枝迎ひより梅は　弘永
未くの中梅もの見　高一
梅雪の風をひの白ひ　正次

雪

雪の知雪でたる　弘永
雪の雪ゆや雪ぶ　秀重
何人や雪の琴の知雪ぶ　昌元
雪ぶ雪の文字数　元教
雪を降るにぶや法　盛元
雪ぶ一百法のこ　日
法雪雪ゆく降雪　日
雪や雪にぶく　日
うくひとは梅の雪　光貞
雪の千尺八ぶ風雪竹　正利

花さきハとく鶯の経行かな　正甫
鶯成く山聞ゟ法花経　永治
法華とてあへしても見ん鶯　元次
高山の谷隠るやうぐひすを　保成
鶯の囀りハ百ニ三ぶの郭　重忠
月星こそり鶯の初音かな　如雲
鶯成なきひるの飛翔かな　安知
うぐひすや梅と高きに法の色　成政
鶯と梅や桜をあしらえん　正縄
鶯の百囀りや百人一首　弘永
うぐひすも日ゟ声々の声かな　忠也
とひあきハ鶯籠のかれかな　貞重
曲調ふ啼くらくひすや初音かな　定喜
鶯もへまし鳴やむめの花　正則
うぐひすの声高きや宝蔵　宗清
鶯成経ゟ節かや読みつくし　重成

声くハ実鶯神もよろこべり　保之
梅ヶ香やこしら金の羽ある　宗房
鶯や梅さく庭のあり鍋　丹波守
鶯の初音や館の洞のとう　昌岩
法問ハ又法も姿の鳥合　重直
鶯やみのむとらうのさき　正直
木の間色ハ法も姿の鳥かな　一正
桜ならさめハ二度の声の声　重方
先鳴ハ鶯笛のひしぎかな　宗朋

霞

繋るに凋りく行かもとるかな　利清
甲斐山のさゝびくらる霞かな　正亭
山ハ花が絹かゝ霞のあらかな　義
月人錦ハ霞の鏑のゑのかな　弘永
その もゝ山ハ霞のきぬ錦かな　同
糸桜ハ霞あちこの帳つさかな　忠一

酒の月に風色たなるや三日霧　同
雨も霧かゝるころの小袖哉　永治
雲の袖よりくもらんで湖霧は　定重
三国も霧につゞくころかは　紫雲
かゝる日も岩や夏の風霧哉　同
湖水ハ八丈織のうすさ哉　同
朝霧やもみぢの錦織かな　正重
能ると縫よかすこの衣かは　長世一
天狗の霧を紙やも素湯　政公
山の端はれつさぐるや散霧　玄毅
三里に埋もれぬやうへ霧　武清
小雨や菴の来て霧かは　正重
松枝の汁さしるし文字　重定
きらぎらと霧かゝる湖面精　自笑
天と地の家の縄やまた霧　弘永
おく山ハ霧のうれ哉　同
亀山のうすくハまたかすぎたは　同
山肩はうく一つのまゝをかすく　政之
川まで霧や山のうし湖ぶて　路虹
まくにゝ霧や山の膝屏風　幸五
山ハ分き一かりてみまゝの跡　勢齊

残雪

年を流れの松の小袖雪　正直
花に雪のちりと程よ日影かは　永清
大日ハうき湖のゆき佛　同
消るや亦はじと来らと雪仏　正利
冬の綾流くまゝや雪模様　同
猫の湖すく夜ゝの雪　昌玄
雪むハまた来くるや峡逃　同
有むへの川にまや湖の雪佛　湖元
消うせぬむしくも化生の亀女　光重
未ゝ残雪ハ花猶の画絵哉　言長

水し清き雪やうやうとけの花　沾洞
雪の雪やはいりの沼の白波　[illegible]
水はひをけきてをさらく雪見　[illegible]
を新しき雪の日新なる雪仏　[illegible]
あの泡し清うこれしめ雪女　光忠
雪ゆとはしてのう雪うか　[illegible]
杉のくりは雪きたるーふ面　[illegible]
清めるや雪の花いき雪のう　[illegible]
雪間麦の芽を雪見ハ雪見　[illegible]
白雪の仏の果を温飯こうか　[illegible]
雪仏きゆう神やさうゆ樹　元次

春氷

雪の日ふるえんやけきれてゆのう　永治
ふのがゆう金しくうをゆ風
雪ハ氷とうう氷の新こうか　昌光
料いの雪のうゆうう知こうう　[illegible]

うけて又ひとふゆやこ雪ふる　[illegible]
清やーあがふうのあや　[illegible]
ゆうけく氷しあや中ふう　[illegible]
知氷ひまのゆのうう氷こ知一　一西
日の夏ハ氷のひまや清うう　西乙
若河ふゆうやまものうぐ　弘家
雪と氷のあやとうう氷ハ　宗房

春雨

池ふうハうーはるるんや雪の女　西孝
雪雨ハひとすれあのこばちハ　西乙
雪雨にうーやきるあや見　西重
春雨ハ雪のむもの火ゆこの郭　永治
やう水のいてとうけてや雪の雨　安明

水月

花の陰とやぐ月の沈りハ　正武
雪ゆーとと雪ーと月ーー月　昌吉

春日もむかふところはさくらの露　由氏

柳

みな人の目も気になる柳一の郎　立之
気長く見え騒まる梢かな　貞盛
すゞのびゝひとのびはのべし糸柳　継之
川上けふ柳を今日やこぶ柳　宗正
いたゞきゆふかぜ揺るゝ梢かな　道二
あの露ににほふそれかの柳かな　一正
万緑吉いて不足ふし柳　定重
作ことはみどりさしぬ糸柳　忠也
さか髪とみたるは風の柳かな　吉林
緑より白髪は雪の糸柳　昌意
髪長と三方に空る柳かな　定紀
水の面やたゝりそくろ河柳　貞盛
打枝は髪そぎのごとし柳髪　永清
青柳にて是髪とるれ子すまゐ　正恵

風さそふ柳の髪や大まよひ　家明
出る月は柳のしげみに柳かな　一正
風のまはりしがみけるや柳かな　玄順
水のおもさきまるや髪の柳かな　永清
肩にあるる髪や黒髪のかし柳　光正
鞠の雪に結ふ糸と見柳一の郎　正次

春草

はむくさ黒みてはまするあらぎ　継之
うちなき緑すげに見え目おどろき　文雅
鉄鉢ことのをかつむさ見わざゝ　正直
藩生て一段高きや見所　弘永
行へられて見みそとも霞かな　光之
花さけば撫子も色見わさゝ　盛昭
ゆめの日もねや公の見一のさゝ　宗春
春の日にかげとふうさし乾草　正包
どけわけ芽は花い露の花藻かな　貞播

蹴の露とくむ雲の波やまこの面　鶴雪
うんかくや風のひでめし軒の玉　立雨

菫

まん中にうつり花咲さす進　宗治
面影のむやつがく蓋す進　光之
菫ひくはやいはくも仕野　立花

出葉

ゆうもてわ藤もろの葉一匹
昨とうつもやさ葉宗や葉　貞盛
玉葉にたまし八葉のかげもや　宗春
みること見ひるくさこそ玉葉　徳雪

蕨

うでこそてこまくやはなる蕨　立雨
さ蕨やひこしたなこはの脇　宗雪
ひ花せこそさ根のトろひ　宗花
手ごもをあつてわろ松　徳雪

さひくひのひむりひ水蕨　白雪
ひ人のとりもにたつひこ一匹
雪風よ物うまてゆりひ松　李松
若とうり若ごるひ蕨　興親
玉葉のひはひうる蕨　西次
うしゆこ河やこ花のトひ　西直

春月

こてこよ若わこの雲の月　光有
月ごとすこ雲やすら衣一匹
ひ月の春幕ゆ雲や雲　弘永
なのえんよ春ゆ朧月衣　永治
雲ゆにはまを月入朧月　西雪

雲

なんこまいひつこく接ゆ　宗友
さうあるいはよ龍ゆむ代　西友

遅春

鬼やさめし神も霧より猿 望一
翁の面は霞と花入猿の舞 月
面影は三五夜の月や伊勢猿 月
日数へてとりも伽や伊勢猿 正之
伊勢猿こまやつぎ舞三方鼓 正直
いき玉しむやみぎり玉つづき 住吉
家まおつ鳴やすゞ入らう猿餅 守住
ひらくもりみるや眼の玉猿 正利
まぐ年に端と舞ひも赤猿 弘永

桃花

仙郷の道と古木の桃の花 宗房
陰まはなく年永よぶれの桃の春 宣明
むの陰も桃のさうらん丹陰が 宗朋
桃の酒や三日いゆて三日酔 一正
女の酒とのむは桃之上戸かな 紹元
心まもむさ仕入り桃の酒 光重

杏子

花は梅かんとの外の人も杏哉 秀重
唐からは留守に通ふや杏の子 孝勝

花

みまてて見たれもおし花盛 昌玄
吉野とも山桜や花のちぎる 正直
咲くるや花とみきんの何かゝら 重頼
人かまうへるまやむの何の陰 正章
猿まる花まんやうちさざうを 弘永
三月まかまりやむのけら目 路云
蝶の舞やまうくむくらみ 丹陰
花どきは花まや斗り花の雪 之
生花まいのきりとりむうの卵 正利
風のほゝむの寄こゝろざしや 秀重
まえ出とたへなむは空に動き 貞盛
細とさくら紅ぐむの盛の卯 一正

春風は絶てもみやび花　徳元
花ハ今ハ人ハ人ゝの本性　宗除
行むさくれ鶯とり鶯る心　宗治
こゝ花をさむるやあの所ハいさ　雨沢
非とても花を見ぬやむ乃夏　重方

日向の国なるゝ人のひく
見たむ乃国ゝ乃むやさくや姫　宗房
昔ハ今ゝ今ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ　重貞
花の色ハ色びらゝ乃ゝ乃ゝ　吉政
知るゝやゝゝゝ乃ゝ乃ゝ　盛長
心のゝゝハ乃ゝ乃ゝ乃ゝ　重次
春ゝ且てゝゝ乃ゝ乃ゝ　長昌
春なゝゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ　重久
乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ　利次
乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ　長重
乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ　正親

花と言ひ人ハ乃ゝ乃ゝ　未吉
乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ　重供
紅乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ　意教
春と乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ　忠也
さけハ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ　金石
春ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ　弘嘉
本に乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ　信安
見ゝ今ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ　勝俊
ゝゝゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ　宗補
花ハいやゝゝゝゝ乃ゝ　西城
花ゝとゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ　元弘
宿ハ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ　宗教
ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ　宗連
ゝゝゝゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ　道二
聞ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ　是信
聞ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ　未吉

ひとしの花やはこぐさ峯のはゝき　徳言
若紫の濃ぞ沸しらず色好み　定時
花山の花や日さかり花盛り　梅盛
ちりもせずすゞやかの鏡とぎさ　西似
花薄しあつてや錦ざこんでまる　寛記
いとくられは花ひんのぬすまは　徳幸
明月の印しるしや盆花ざかり　同
花盛ご扇ならしけし吉野山　同
花の陰やふりにつまりぬ面影り　同
月にあふさかしさかやむ乃風　同
ぬるゝ雨の木移る主やむの枝　同
胸やはん色のむの坪玄中　同
東にはつかめるむいふするか　同
秋のつく花かともや小灯籠　同
花の名や山かとこしの吉野から　忠友
むの色や嘆とも知るは二度めくき　光之

風しをりまゝ緑てるは花の霧　昌意
巳已己巳の文字の雲ら讀寫しも　重頼
花盛やすまんじゃく魔鬼の名さ　家房
有に咲ハ天にかゝるかな花も　貞継
吉野山のむや旅人乃頭の内　正章
散ざりハ忠がふ花くむ乃事　政公
打ぞろハかゝのさくら花かな　弘永
名ざくらのむや盛りうらの一　一正
旅の花ハ詞書花のつがくる　季方
花を移ゑ礫ハいのにむかうし　家治
みごとを見てハむよ花さく花の卯　守代
中に一本さむしいふさ故鄉　家房
花の枝をおおにむるや旅人　吉政
咲かけて毒薬をむの母　玄勝
もうまぬ人鏡しいその山　友一
ときの梢や雲に掛むさかり　宗隆

月花のうつりかはるのみにあり　一四
春ごとにうゑおくとぬるとこの花を　弘永
花さんぢさんをあくのかぐ　月
風やむもののあるうのはにのうち　嘉
みてもみん金ゆとくとたのむ　昌
日なりてのびいのうれ雪のあり　月
風まうてあるめしあるやかの金鳥　雪
面白いありてあるさまを　月

一四　ふるの酒のあるく
むもの言もつるあるの文　言
雲の残れ月むみるや鶴巣　能
さけいの酒と同をうりむ　弘永
福さうまれ仏とい　花
三月やしくのむ　宣方
船のもいさなるき　廉
むのあるそうぞくけるの　一四

書のうもはしのむ　花
花のうのをわ　月
世やむるの月　能
山はいのうにあるや　永
春にあるやし　光
むるすしはをの　立
はりしあるむいさ　昭
あいるきいこのの　月
義いかをこれを　能
相ひしまるやの　夏
花見すは是　雪
鶴につてあ　弘永
鶴の雪をこ　月
ちうむいまの　昌
大今のむみ　宗
さけいくせは　四

四八

若草もふくまれぬ世やむさし野　正重
鶯る山もの尾ハ松にうつる郭　弘永
都さき見やうけし梅やむの風　正盛
ころろく花ぞや花の雪らされ　昌意
陰に置く色みつ鶯や根ねきる　同
みさきのかへの月はすいむ鶯　一正
むまちのこしころりくろかね梅　宗清
花ちらに傾ぶく梅の尾一のか　重生
咲むの紋所を借れうとみすこ　政為
赤梅うちにをさしむやかう吳　同
ほころりしかにたく松風雪が　一正
梅の毒そみて末代毒そむかの風　昌意
みちへ前門ながしや花を勝　弘永
終めらハ毒や咲出よむのを　同
暁風に焼てかうやむのうち　重方
谷のめくみてや月清れむ径

梅

菅野の春式ふ続く
梅田の梅咲きた若野る采の郭　正重
海老の梅など
伏のむかろてもむれ梅の郭　弘永
梅木に花かくかかる木の梅風　正武
まきてく咲ハ梅見か木ずいか　樂家
乃至ハ梅木梅なれ根つざらか　道二
花よりも奥に伏して梅や　光有
えてゝれハ立そちなれや梅も　定春
梅咲きも山どちそ苦若地　かく友
三山木代梅や公家の田舎侄　德元
梅田のまたたまやよしの山　昌意
みちへもみのしくそふさろう　宗徳
花見れ花みなりひきさそうか　一正
おうかまれかしらやときうつ梅　樂家

ゆきずんいしうつ　窓のゆさうう　宣軌
筆にてそる雲隠さうう梅　信元
糸梅みるや石ゆうしたうう　繁勝
花ハ根ゆうゆう筋ゆう糸梅　定次
みうくいそうう　糸梅　吉政
一九よりうみうくちうう糸梅　定附
糸梅さうく　陽わうけうう　嘉寿
雲谷の花いうう　道二
人間りのむうう　健嘉
うく　ゆいうく　せいう　蛇梅　西重
むううう　ゆうう　蛇梅　秀重
花のうう　ゆうう　梅　宣方
雲ゆうの　ゆうう　梅　弘家
苔ゆうや　ゆうう　梅　政公
風ゆうゆう　ゆうう　梅　宣久
隠ゆうの　ゆうう　梅　四重

馬の尾ゆうゆう　風の尾梅　弘永
ゆうう　ゆうう　ゆうう　梅　政政
うゆうう　花ゆうう　八月　月
花みうゆうう　ゆうう　八月　定附
花ゆうう　ゆうう　ゆうう　八　宗重
十ゆうう　ゆうう　ゆうう　八　宣長
むうゆう　ゆうう　ゆうう　八　秀重
鶴ゆうう　ゆうう　ゆうう　月　秀重
天照ゆう　ゆうう　ゆうう　梅　信元
月の東ハ　ゆうう　ゆうう　月　男吉
ゆうう　ゆうう　ゆうう　ゆうう　月
神のいゆう　ゆうう　ゆうう　梅　忠也
みうくゆう　ゆうう　ゆうう　梅　弘永
むの木ゆう　ゆうう　ゆうう　梅　慶政
ゆうう　ゆうう　ゆうう　ゆうう　梅　宣方
ゆうう　ゆうう　ゆうう　ゆうう　光忠
ゆうう　ゆうう　ゆうう　ゆうう　吉弘

松尾二十番社ゆいせさく　月
をゆりもやこの花の伊勢さく　利色
知人のみる目加るれいをさく　宗春
加るを為くさ伊勢い橘うか　俊音
風のをを見ものもんいをさく　健雲
花の頃法華経やいをけく　宗祇
ゆ人や有ゆ月ゆくいを橘　橘屋
古橘の事やをこうハせうも燒　西保
古橘といるを泡水の花親うか　反屋
宋橘のらをハすしをを家ゆ　文雄
もしくゆしいをんや橘の橘水ハ　宗反
橘を妃の西氏ゆうやをの家　西也
橘を妃のむを橘情やうの北曲　宗室
面しの橘を妃を面くをやをさく　改石
えて方ゆ方ゆ橘ゆ方ゆ　永作
紙こをくゆうハ為情ゆ橘ハ　反

花の頃ハ木男ゆをやちく橘　法水
ゆをさくゆ花ゆをくちく橘　月
ゆ月んこ橘きりせくやちく橘　西也
風のをにゆをさすゆ風ゆ宋橘　重定
ちく橘風く覚やゆをくしう　改石
ゆ月ゆをやゆくく里くちく橘　常久
くく浪ハ花をゆ加くちくさく　頼実
むさんんやくやしゆき宋橘　秀重
いゆくをゆくゆて花ん八宇橘　改石
本氏ゆハハゆくくく八宇橘　一西
九宇に花をくゆ加や八をさく　清光
八景し宇くいくく八宇橘　宗反
いゆくのゆくゆやげや八宇橘　宗歌
ゆをゆハ景ゆをゆ宋橘　西宗
むゆをゆをゆ風ゆくゆ宋橘　弘永
ゆくりくをゆ風ゆくゆ宋橘　月

柳ちるもはなはなれあさく　通二
風のさそふ服をもはあさく　幾嘉
あるひは夏やぶりゝあさく　西重
はなはあの花は内花ゝ　京政
新口に梅やさしうあさく　安明
花ゝさくゝ屋敷ふしあさく　左一
鼻ゆくれはらひもはあさん　京教
みるゝや佛の位ふんざう　家俊
ちまゝ紙ハうしてふんさう　一利
ものゝでは書とうざうあるゝ　一正
善男像のゝうにまれぬ人は　日
物ゆゝとるや白ふんざう　伊徳
縫舞やまさゝ梅のふ家ゝし　京行
紅にみるゝやゝくしまさゝ　利安
冬度の梅はらしまさゝ梅　徳元
花ゝくの木ちるゝまさゝ梅　宗春

まの花とゝくさゝぬやうさゝ梅　宗武
海さすゝやゝの奥のひさゝ梅　誓信
ゝゝゝゝゝゝ日傳ゝゝゝ梅　樂雲
心葉ゝゝ月の花やさゝ梅　永流
結くゝ紀の春ゝやさゝ梅　貞登
ちゝ春ゝの使ゝ春ゝ　母紫
見ゝゝ鶯の見ゝさゝ　重貞

小米花

あごさゝゝゝゝゝゝ小米ゝ　恩也
かゝゝ金ゝゝ梅ゝゝ　重貞

海棠

海棠ハはゝゝ梅ゝ　道二

虎丁花

まの目ゝたゝゝ白ゝゝ流ゝゝ　清說

鄰躑躅

ゝゝまゝゝゝゝゝれぬ　雲陽

みみんの今日こそ　宗武
まこもかりや新りき傳て　光英
らばいねどしかるを　治永
歴とやみぎりきこうぎり　数寿
こう重ねりこしひろ口のい　同

藤

ふじ咲きし　[illegible]
藤の花や　[illegible]
松の藤　[illegible]　吉寿
藤の棚や人の[illegible]　昌元
序方へ行よりの藤やうさい波　宣礼
ちたれ波ちりて今や　藤巴　[illegible]
民しうをぐらちをうや藤棚　宗房
藤の松かりて[illegible]　秀重
ひりの松にうの[illegible]　[illegible]
[illegible]の[illegible]ぐらひりて　同

やく自ちてさうこれ松さう藤　成政
松の松ハ藤ハ[illegible]　昌元
とのうるしふるやつらかち　西保
松ふ[illegible]ふ藤ふ[illegible]　信全
雪降くも[illegible]藤氏や[illegible]日山　[illegible]二
松ふ[illegible]ふ[illegible]や藤の丸　[illegible]
的乃の[illegible]ふ藤[illegible]ひや藤氏　西重
門[illegible]ふ[illegible]ぐらうう藤乃人小　重吉
神[illegible]ふ松や藤のまさ松　一来
波さうせ人さまうせうう藤門　光乃
白波を[illegible]藤や松氏藤　[illegible]
[illegible]もふ[illegible]の棚そ藤の[illegible]　西重
[illegible]波ハ藤[illegible]ハ藤の[illegible]　西長
[illegible]の藤[illegible]藤[illegible]　利色
松の藤[illegible]や藤[illegible]　[illegible]
[illegible]ひりふかさ　[illegible]

歌久

山吹のはなとハ神金(みかん)絞りか　重方
山吹く山からし風の卵　加友

蝶

〇〇世と花そゝう二すゞ胡蝶(こてふ)ハ　良化
ちる花の宿やよそくは蝶の舞　定時
常やこそ舞の〇〇(へんくん)の　〇〇
ゝくとハいふ山路の蝶の舞　同
花の枝や胡蝶の舞の〇〇ろ　同
来る〇〇(てんぶん)にしむしむ舞ふ蝶　弘永
胡蝶りや〇〇ん〇〇〇〇　同
〇〇も花ハ花ハ飛やすらし　安知
蝶の葉や花のもとて花に蝶　正甫
花ぶさとちぶさにてうこ蝶ハ　与一
ろうり舞まゝら胡蝶の二つ連　霊〇
ふ゛手にちいさし蝶や吹のまゝ　同
〇〇(せいじん)しみつや胡蝶の真似舞ハ　〇〇

ほうしもハらりの枕めくてふ　延清
佳人(かじん)の舞か胡蝶ハ夢するし　吾林
楊宿ゟ二足こまりやて〇〇ひ　秀重
花に風不意(ふい)とみゆる蝶乃ゆめ　安重
花一月ゟ〇〇〇〇さ胡蝶ハ卵　似春
〇〇て〇〇果報(くわほう)ゟもて花にまふ　同
花は春の蝶や還城楽(げんじやうらく)乃舞　同
舞蝶の月付枝(えだ)や〇花ちる　同
むよ蝶いつ〇〇八一乃〇〇〇〇　同
一ごひや胡蝶の舞乃〇〇〇〇　同
〇〇れぬハ〇〇〇〇れ胡蝶哉　重貞

蚕子

〇〇て八桑(くは)も〇〇〇〇〇か　秀重

蜻

あかく蜻蛉の〇〇や〇〇〇〇　〇〇
ともゑにや〇〇〇蜻蛉　弘永

[illegible]

歸雁

[illegible]

雜子

[illegible]

雲雀 付鶯

[illegible]

春部

[illegible]

家となす妻のむかへしこゝろかな　重方
春鳴やけしく見るかひとゝきを　福家
かへる雁ハ声よしかつこの時鳥　直之
ゆく〳〵こゝハまた巣離の鶯かし　宗意

桜鯛　付桜貝　同桜魚

浦ハしらねといふやこれ桜鯛　昌圭
松やさし房のこそたと桜鯛　鶴家
浪やさにかるかおかくさくら鯛　同
三かまや松帆の酒茶桜がい　重房

同三月より

風月をはるや花ぬさぬくら鯛　重頼
口ほどハ花の桜もさくら貝　孫泉
嫁のきやさくらやハさゝ桜ゆる　従安

若鮎

石のとをはしるハ鮎のあけ哉　来山
鮎ひと〳〵あけるや節の若鮎　正竹

小瀬にもひとへにまたくなまづかな　春可

春駒

ねんくハんの駒を出すや春野哉　元忠
野のわらくハテテハ春のゆら霞　重好

永日

人をはもありく炊くる日くらし　正則
永日や天の手伊ぬの入しだき　安清

曲水宴

曲水を詩作をうるや流の杯　宗九
うそぶ節を一両あゝれ遊ぶかな　當之

三月尽

行春のくさぐくかしこ文字　弘氏

惜春

惜りしまく
年ハみなおやうつねがやかねの酔　云　俳石家
同性千一万人の附陽へまかりて

住の江の岸の姫松あはれとも
住吉の浦やこのみらくる怪ヲ作　宗教
あ寒し浦の朝い　きさみ作　徳和
まもと揺くみくぢつひ分葉　湖元

毛吹草題目錄

夏部

更衣　　余花
新樹　　若楓
卯花　　牡丹
苔茶　　牡丹
葵　　芥子
風車　　常夏　付撫子　同子作
百合花　　素人草
五月草花　　撫
挽子　　球花
樗　　唐子
時鳥　　蟹

蚊
水鶏
鮎
水草花
早苗
梅雨
紙帳
蚊帳
素麺
蓮
白雨
網干
泉
蟬
粽
菖蒲
若竹
五月雨
青梅
夏月
凡夫蘭豆
夕顔
海蘆
扇
帷子
雑夏

夏
更衣
花の色もいろいろ立つる夏衣　沢瀉
夏やうらなりて花の久しき　路次
ふる雨も世を涼なるさのわたり　吉政
夏しるしるしるしるしるしるし　重言

餘花
世をうらうらと花初花立　橘洒元
卯月もものもやさしき　沢瀉
陰の実花やさうる　橘　吉弘

新樹
若葉の陰ところもしろ　昌之
ゆすらうめ本は夏の　春交
夏山の陰すずし　定言
夏山の陰ぬるる　之
夏山の月の出るる　新橘
夏山の月の出るる　良遊
夏山の月の出るる　定利

[illegible]

大小の物やりうつし　[illegible]

[illegible]

[illegible]

菊子

[illegible]

[illegible]

[illegible]

風車

[illegible]

常夏 付撫子 同石竹

[illegible]

[illegible]

[illegible]

姫百合八葉人参四葉約如意　汀泉
相とりやうとそうん草百合　光之

蓑人草

花鹿毛の八重人参　定重
わらへいうふぢんるまの蓑金　也重
あるまのしいつぎ物や蓑人参の　定時
見ひのざこうりてあ蓑人参　留一
捨らまつ面施り蓑人参の　正也
えり切はやふ蓮の年代蓑人参　忠城
巻ひとそやあこぬうの蓑人参　貞堅

女郎花

撫子しう女郎花かのこ撫子　勝政
ひく一野に咲も竜ぎく　貞徳
陽炎て水くさかりしの　吉江
せくるとえもあやぎ　乃徳
二の宮をあまの二八の　法元

桔梗　秀重

桔梗の花の花の　汀泉
ひとこと　康庸

桔子

ひとつ　法元
いさのまん本に危の　定教

紫花

ひつくくまりの花の　盛政

撫子

ひとつ撫子やまに　秀重
ひのくらをくらもを　定教

鹿子

やうのひのこうまつ　定朋
国よ西うう猪師八蓑の　盛重

郭公

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一ときやうの者たちに二ときさ須　康頼
とてもなのハいかゝ[illegible]
あるべきやうなりるさ[illegible]
[illegible]
[illegible]に
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

水はやはらかに光はゆるやかなる夏の由也
久方の月の光はあまねくて蓮の葉のかげ也
竹のうへに掛ふたかの光の花蓮
蛍ちらはなてしやとさすらん蛍
蛍やとこそ池のうへ池の
桃燈の所りの蛍蛍
清風とうくまはなり中央の花蛍
蛍やとひかてくはあり月こそ

蚊

闇の夜に蚊やかうてこそ光
とうとうまてやくとをとはむ蚊遣
久方の風に蚊遣のうつるかの
蚊遣は一なりとの尾の蚊
蚊遣はつなりとの尾の蚊
蚊遣の手箱のうつるの蚊

みなとのうつる柳の蚊や蚊遣
蚊遣はなりとはあの尾の蚊

蟬

夏の来になく蟬まてや蟬
鳴つくしなりの手のうへ蟬
蟬なきの角とうてや蟬
夏なくしなりとはむ蟬
風雲の蟬の蟬やうの蟬
蟬なつかしみ蟬
生涯をとしてつくさ蟬

水鶏

鳴うてはうてきさうの水鶏

蚊帳

やもりやくつせぐ蚊を蚊帳
ひとりかやの蚊帳の中の蚊帳
ひとりや寝ハ蚊帳の中の蚊帳

[illegible]

[illegible]

菖蒲

川べのこけむすまつの菖蒲　雲英
菖蒲刀みきはの沼もやなのつら　宗流
菖蒲刀はぎ抜きすり折れば　立花

水草花

きてやうんさいのしびれあや　俳言
水草もまれにはなさくもむかしの夏　宗弁

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]てはいかなる[illegible]
うつる四ハ海もの[illegible]　法元

五月雨

五月雨ハ[illegible]もや沖の石　昌言
五月雨ハ[illegible]色の[illegible]　乃美
五月雨ハ梅の花[illegible]　宗彩
六月雨ハ河[illegible]　[illegible]
五月雨ハ[illegible]やき[illegible]　[illegible]
五月雨やうん[illegible]　[illegible]
五月雨やつ[illegible]　[illegible]
五月雨ハ[illegible]　[illegible]
五月雨やこ[illegible]　[illegible]
五月雨の[illegible]　[illegible]
五月雨やる[illegible]　[illegible]
五月雨の[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
五月雨ハ[illegible]　[illegible]

[illegible]ハ月[illegible]
[illegible]ハ[illegible]
五月雨や[illegible]の影の大[illegible]　[illegible]
五月雨ハ[illegible]　[illegible]
五月雨ハ奥[illegible]　[illegible]

梅雨

[illegible]日の[illegible]　[illegible]
[illegible]ひ[illegible]　[illegible]

[illegible]

[illegible]梅やすき[illegible]　[illegible]
[illegible]梅法師　[illegible]
梅[illegible]　[illegible]
木[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]

[illegible]

[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]

[illegible]

夏月

[illegible]

[illegible]

[illegible]

行くへなる菊は姫瓜のうづきが　西元
実もいとど行かのすくるやかぎくぎ　三政

蓮糸

[illegible]みうきもるる　法水
豊臣の色猫の目て[illegible]　四重

久新

久方やひかりをはらくまれる　宗牧
白雲をまとめ久方の空の月　長政
久新の[illegible]ぐつづられぬ　宗房

蓮

[illegible]　[illegible]
[illegible]ても地でいはれけれ蓮は　西元
蓮池はいかに中[illegible]みの[illegible]　法水
人の母[illegible]迄[illegible]
母のうら[illegible]蓮の[illegible]　道二
感みく[illegible]もひ[illegible]　[illegible]

[illegible]
[illegible]は[illegible]　[illegible]元
[illegible]花の[illegible]は[illegible]　[illegible]水
蓮ものを[illegible]　[illegible]
[illegible]ものを[illegible]　[illegible]元

海雲

[illegible]　[illegible]元
[illegible]　[illegible]

白雨

久方[illegible]　[illegible]元
久方の[illegible]　道二
久方[illegible]　[illegible]
久方や[illegible]　[illegible]
久方[illegible]　[illegible]元
[illegible]　[illegible]
久方[illegible]　一水

久しられるるこゝろやいかなれば　言雄
久しの里や河くをたゝ重ねぶり　慶忠
久しれぬわるまゝのわるまゝ　庚伽
久しらいとうてふきあり東風　之之
久しれぬこゝに住はづく日是の節　昭云

百一句歳世の流り
久しのやゝ海しきみうらを　長義
久しを清みうゝ赤ぶ　元綱

扇

何ゝを扇ようけいはれ白の節　海元
秋風ゝ四ゝ扇の池ゝ　素礼
月を雪のぬぐ三ゝ扇る　昭云
ゆ扇ハ二親鬢と俗の節　古登
やぶまゝ風と風やうゝ　江永
海ゝさもぬゝ扇のゝ　宗治
月ハ扇をつゝみる免る　白也

ゆ月ぎぬ風ゝ扇ゝ　樂素
ゆつゝ月とゝ扇ゝ　昭云
ゆ八扇風ゝゝ扇ゝ　之之
風ゝゝ門ゝ扇ゝ　正秀
風の秋乃未社ゝ扇ゝ　一西
ゆ門ゝ扇ゝ　素仁
ゆ月ゝ扇ゝ　忠也
風ゝ人のゝ扇ゝ　昭云
未扇もみやけゝ扇ゝ　西面
月とゝ扇の法やゝ　古義
風の秋に蔵ゝ扇ゝ　長雄
昭風や扇ゝ　宗長
風の秋ゝ内端一西ハ扇ゝ　江永
紀義ゝ拾いんぎん扇ゝ　元次
香を扇ゝ蛇を遣扇ゝ　宗明
六月ハ風のゝ扇ゝ　永治

[illegible]

網漁

[illegible]

[illegible]

[illegible]

、五月雨のうちに思もかけなく移りゆく　書久

卯月に入日蘇の花をたづねて

麦寝毒ひろ[illegible]ハみぬ業平　業平